

## 久保田真弓先生の定年ご退職にあたって

総合情報学部長 名取 良太\*

久保田真弓教授が定年を迎えられ、ご退職になられた。それにあたり、先生のご功績を紹介し、感謝の辞を述べさせていただきます。

久保田真弓先生は、1978年3月に東京理科大学理学部数学科を卒業されたのち、1984年8月に米国 Indiana University, Department of Speech Communication 修士課程に進学、1986年6月に同課程を修了されました。さらに、1989年1月に米国 Indiana University, Department of Speech Communication 博士課程に進学され、1991年10月に Indiana University, Department of Speech Communication, Ph.D. を取得され、11月に同課程を修了されました。職歴は、富士見ヶ丘高等学校数学教師、青年海外協力隊理数科教師、国際協力事業団沖縄国際センター日本語非常勤講師、大阪外語専門学校英語講師などを経て、1994年4月総合情報学部開設と同時に専任講師として関西大学に着任され、1997年4月に助教授に、2004年4月に教授に昇任されました。学部では、とくに留学生の学生生活に多くのサポートをしていただきました。また大学院生の指導にも熱心に取り組み、現在では、多くの教え子たちが教鞭をとっていらっしゃいます。

真弓先生は、これまで、コミュニケーション学や記号論の観点から、「体験」、「経験」、「志向性」をキーワードに異文化交流の意義に関する研究を行ってこられました。これまでの異文化理解の研究とは異なり、コミュニケーションを認知的側面だけでなく、情動や行為、対人的な関係性の側面にも注目して研究をされ、著書『「あいづち」は人を活かす』、『異文化コミュニケーション論』（共著）をはじめとして、多くの研究業績を残されました。

私が本学部に着任した2000年4月当時、女性教員はわずか2名。いかにも大学教授然としたベテランの先生に囲まれ、場違い感を覚えていた私に、真弓先生は気さくに声をかけてくださいました。偶然私の親族が、真弓先生が教鞭をとっていらした学校に通っていたというご縁もあり、以来勝手ながら、頼れるお姉さんとして接させていただきました。そんな真弓先生がご定年を迎えられたというのは、半ば信じ難く、時の流れの早さを感じずにはいられません。

最終講義の場で、3年ぶりの対面講義であることを述べられました。履修者の多い人気講義をご担当されていたがゆえに、コロナ禍ではオンデマンド講義をお願いせざるを得ませんでした。長年教壇に立たれていた先生にとって、学生の顔を見ないままでご定年を迎えられることには忸怩たる思いがあったかと存じます。そうした部分への配慮が欠けていたことをお詫びするとともに、最後に対面講義の機会を設けられたことを嬉しく思っております。

本学部・研究科には多くの財産を、学生たちにはたくさんの良い思い出を残してくださったことに心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

---

\*関西大学総合情報学部